

科目名	社会言語学特講	担当者	シマダ 島田 めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現代社会はさまざまな点において多様化し、ますます社会言語学が扱う事象が多様化してきている。本講義では、社会言語学分野における研究動向を把握し、新たな課題を発見・解決する能力を身につけることを目指す。</p> <p>本講義を通して、世界の言語的課題を理解し説明する能力、論理的に分析する能力、問題を解決する能力、挑戦する力、自己分析能力を獲得することを目的とする。</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリック：A-2:4, A-3:4, A-4:4, A-5:4, A-8:4】</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 社会言語学に関する知識を身につけ、研究方法を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会言語学で扱われる言語的事象を説明することができる。</li> <li>文献で扱われている方法を理解し、応用することができる。</li> <li>小規模調査を実施することができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio を利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る</li> <li>manaba folio 上で、ピア・レスポンス活動を行う。</li> </ul> <p>【学修方略 (LS)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材と関連文献を熟読する。(自習)</li> <li>課題に関し、小規模調査を実施する。(自主研究)</li> <li>レポートを執筆する。(レポート作成)</li> <li>他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。(ディベート)</li> <li>他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。(ディベート)</li> </ul> <p>【学修時間】 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材と関連文献の学修：20 時間</li> <li>事例の分析とレポート執筆：15 時間</li> <li>レポート遂行と最終稿の完成 (教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)：10 時間</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1 締切：6月末(初稿) (最終稿提出期限：前期締切日)</li> <li>レポート課題2 締切：8月末(初稿) (最終稿提出期限：前期締切日)</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1 締切：11月15日(初稿) (最終稿提出期限：後期締切日)</li> <li>レポート課題2 締切：12月末(初稿) (最終稿提出期限：後期締切日)</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	形式(構成、引用の仕方、適切な表現)、内容(論旨の明快さ、独創性、課題把握の適切性)
	観察記録	20 %	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。</li> <li>無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 真田信治 教材名： 『社会言語学の展望』（くろしお出版，2006） ISBN: 4-87424-345-2 2,200 円+税
	社会言語学では様々な言語学的事象が扱われるが，本書はそれらを網羅したものであり，社会言語学の全体像がわかる書籍である。本書の特筆すべき特徴は，それぞれの言語学的事象に関する研究の流れが解説され，章の最後には研究の展望が述べられている点にある。
参考図書	飯野光一・恩村由香子・杉田洋・森吉直子『新世代の言語学 -社会・文化・人をつなぐもの-』（くろしお出版，2003） ISBN: 4-87424-274-X 1,800 円+税
履修上のポイント	基本教材 1 を通して，社会言語学の基本，研究の流れ，展望，さらに研究の手法についても学ぶ。また，この書籍が出版された時期と現在の間にもどのような変化が起こったかにも興味を持ちながら読み進めてほしい。
レポート課題 1	教材各章末の演習問題から 1 つ選び，小規模な調査によりデータを収集し，その章の内容を踏まえて，結果を分析する。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> 小規模でいいので，なんらかのデータを収集し，結果をわかりやすく述べる。必ず，その章に記述されている内容と関連づけて分析すること。
レポート課題 2	教材内のテーマから 1 つ選び，それに関連する 2007 年以降の論文を 1 から 3 点読み，選んだテーマについての基本教材 1 の記述と 2007 年以降の論文の記述をまとめる。（4,000 字～5,000 字） <b>留意点：</b> 教材は 2006 年発行であるため，その後，当該分野の研究がどのように進んだかを分析すること。2007 年以降の論文は，6 から 20 ページ程度の論文を探すこと。論文は，CiNii や Google Scholar などの Web ページで探すことができる。単に内容を引用するのではなく，基本教材 1 の内容と選んだ論文の内容を結びつけながら（比較しながら），自分の言葉で説明すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 日比谷潤子 教材名： 『はじめて学ぶ社会言語学 -言葉のバリエーションを考える 14 章-』（ミネルヴァ書房，2012） ISBN: 978-4-623-06140-2 2,800 円+税
	社会言語学のうち，バリエーションに注目してまとめられた書籍である。具体的な研究内容が解説されているので，方法論という観点からも参考になる。各章に読書案内が記載されているため，さらに学びを進めることができる。
参考図書	NHK「みんなでニホン GO!」制作班『みんなでニホン GO! オフィシャルブック』（祥伝社，2010） ISBN: 978-4396613723 1,300 円
履修上のポイント	言語のバリエーションと研究の方法論を中心に学んでもらいたいが，研究の素材が身の回りには多くあることを認識し，また，これらのことを日本語教育などの外国語教育で扱うことも想像しながら学修を進めてほしい。
レポート課題 1	本書で取り上げられている言語事象について調査をする場合の計画を立てる。取り上げる言語事象について本書に書かれていることをまとめた上で，調査の目的（何を明らかにしたいか），予想される仮説，方法（データの収集の方法），分析の方法を記載する。（2,000 字～3,000 字） <b>留意点：</b> レポート課題 2 で実際にパイロット的調査を行うため，実現可能な方法を考えること。練習問題の内容を参考にしてもいい。
レポート課題 2	レポート課題 1 で検討した計画に沿ってパイロット的調査（小規模調査）を実施し，結果をまとめる。調査の目的，仮説，データ収集の方法，分析の結果，仮説の検証（仮説通りだったか）をレポートに加えること。（4,000 字～5,000 字） <b>留意点：</b> 結果が新しいことでなくても，仮説通りでなくても，期待した結果がでなくても構わない。研究計画を立てて，実際にデータ収集し，分析することが重要である。もし研究計画に不備があった場合はそのことも結果に記載すること。パイロット的調査なので，データ数は多くなくていい。